

守山企業景況調査報告書

(第 50 回)

令和 4 年 1 月～令和 4 年 3 月期 実 績

令和 4 年 4 月～令和 4 年 6 月期 見通し

守山企業景況調査について

(令和4年1月～令和4年3月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 68 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	19	14	73.7%
製造業	13	10	76.9%
建設業	12	8	66.7%
サービス業	19	13	68.4%
卸売業	5	3	60.0%
合計	68	48	70.6%

3. 調査期間

調査期間は、実績を令和4年1月～令和4年3月、見通しを令和4年4月～令和4年6月とし、調査時点は令和4年4月30日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標としてDI指数を採用した。DI指数とはDIffusion Index（景気動向指数）の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算（経常利益）」、「従業員」のDI指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」のDI指数は3カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算（経常利益）の水準」のDI指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

令和4年1月～令和4年3月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

令和4年1月～3月期の調査結果では、業況、売上高、採算、資金繰りの4指標全ての数値が低下した。

<業況>

業況DIは▲19.6で前回調査の▲8.7から10.9ポイント低下した。業種別では、小売業▲15.4（前回調査比+9.6）、製造業▲10.0（前回調査比+15.0）、建設業▲25.0（前回調査比▲13.9）、サービス業▲25.0（前回調査比▲25.0）、卸売業▲33.3（前回調査比▲83.3）と小売業と製造業で上昇し、その他の業種では低下した。

4月～6月期見通しは全体で▲8.9である。

<売上高>

売上高DIは▲14.6で前回調査の2.1から16.7ポイント低下した。業種別では、小売業▲7.1（前回調査比+23.7）、製造業0.0（前回調査比▲25.0）、建設業▲50.0（前回調査比▲27.8）、サービス業▲23.1（前回調査比▲38.5）、卸売業33.3（前回調査比▲41.7）であり、小売業だけが上昇した。

4月～6月期見通しは全体で2.0である。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DIは▲30.6で前回調査の▲21.3から9.3ポイント低下した。業種別では、小売業▲20.0（前回調査比+18.5）、製造業▲30.0（前回調査比▲17.5）、建設業▲87.5（前回調査比▲54.2）、サービス業▲15.4（前回調査比±0.0）、卸売業0.0（前回調査比▲25.0）で小売業が上昇した。

4月～6月期見通しは全体で▲25.5である。

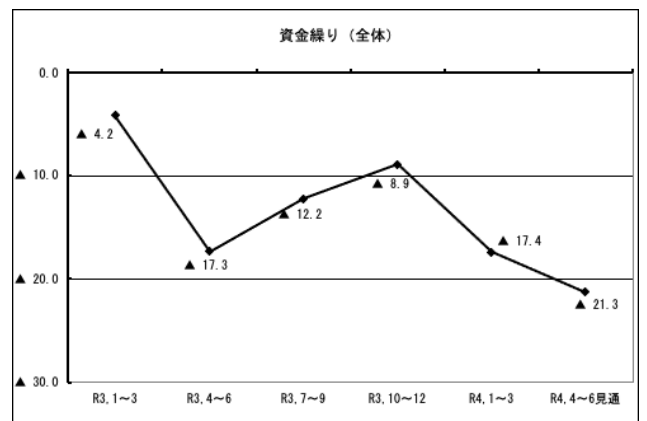
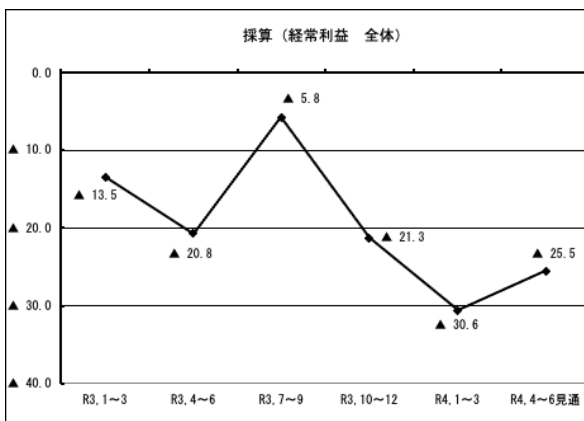
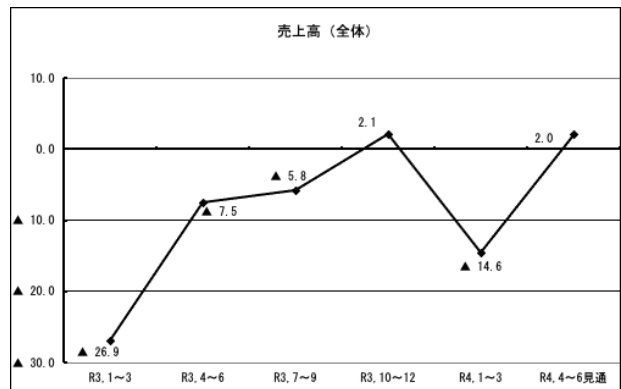
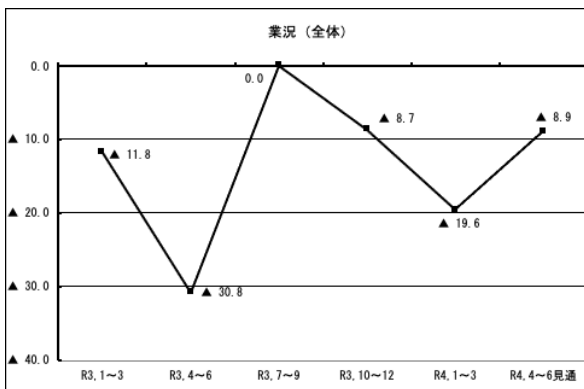
<資金繰り>

資金繰りDIは▲17.4で前回調査の▲8.9から8.5ポイント低下した。業種別では小売業▲21.4（前回調査比▲13.7）、製造業11.1（前回調査比+25.4）、建設業▲28.6（前回調査比▲28.6）、サービス業▲30.8（前回調査比▲14.1）、卸売業0.0（前回調査比±0.0）で製造業が上昇した。

4月～6月期見通しは全体で▲21.3である。

<コロナウイルスの影響などの意見>

- ・よい意味でのコロナに対するあきらめと達観が広がってくると徐々に人流が戻ってくるのではないかと期待しています。
- ・3密の割引きとバルの周知が広がり効果も大きくなってきたように思います。
- ・オンライン、デジタル化が進みましたが、行政や団体があまり進んでいないように思われる。
- ・歳時や冠婚葬祭の核家族化、簡素化で引合いがあっても簡素化少量化している。
- ・コロナウィルスで客足が伸びず、デジタル化で銀行、問屋、お客様との距離が開いていく。アナログ型の人間関係や商売のあり方が今の社会秩序に「ノー」と言われているようで中小零細企業の隘路がやってきた。



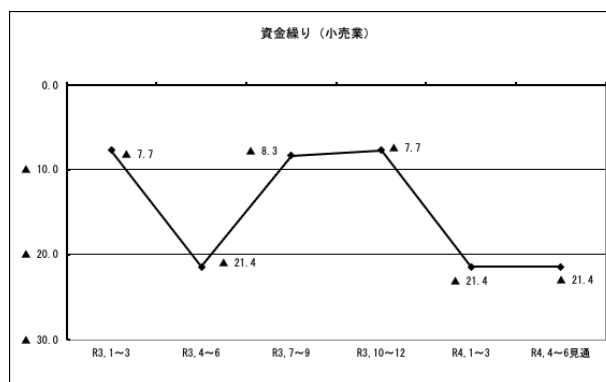
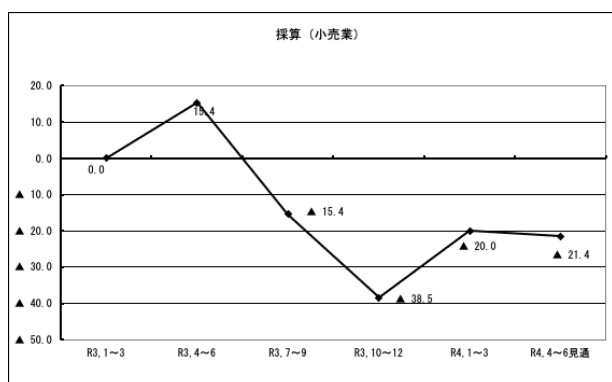
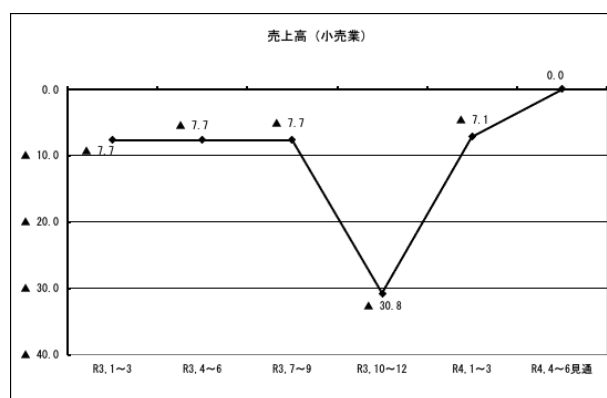
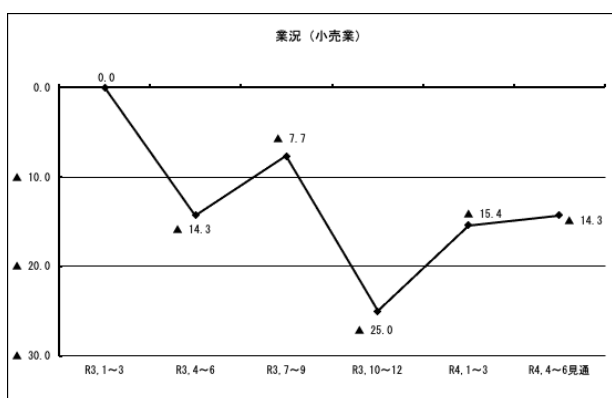
小売業

小売業の業況DIは▲15.4で前回調査に比べて9.6ポイント上昇した。前回調査時点で数値が低下したが、今回は上昇に転じさらに4月～6月期の見通しも▲14.3と上昇しているところから好転しているかのように見受けられる。

売上高DIは▲7.1で前回調査に比べて23.7ポイントの上昇であった。前回調査が▲30.8であったがその前の3四半期は連続で▲7.7であったで、今回はそれに戻った形になった。4月～6月期見通しは0.0とさらに上昇が見込まれている。

採算DIは▲20.0で前回調査より18.5ポイント上昇した。これまで2四半期連続の低下であったが、採算も業況、売上高と同じように反転している。ただ、4月～6月見通しは▲21.4と悪化を予想している。

資金繰りDIは▲21.4で前回調査より13.7ポイント低下した。昨年4月～6月期調査の▲21.4と同じであり、これまで好転してきたのが一気に悪化したようになった。4月～6月期見通しも同じ▲21.4で資金繰りは好転しない見込みである。



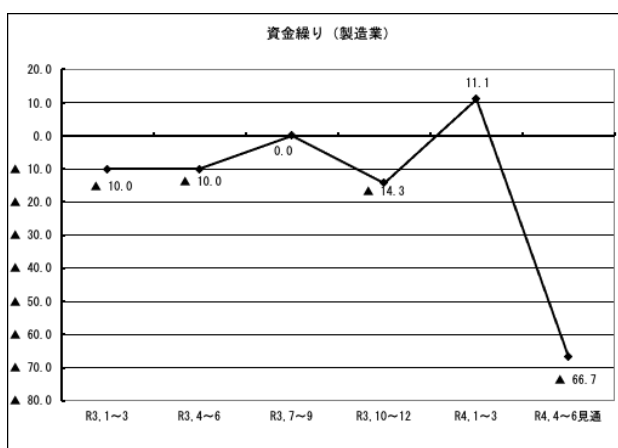
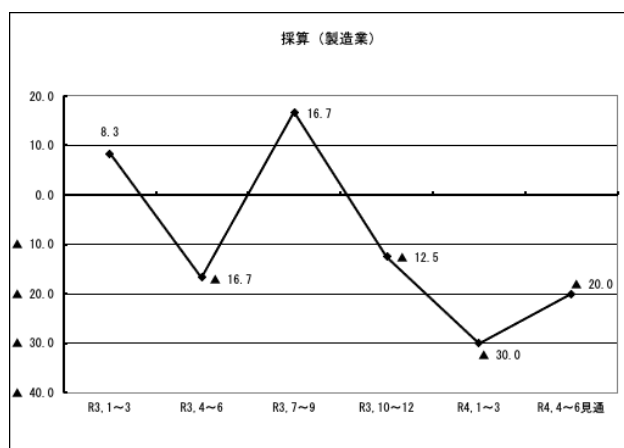
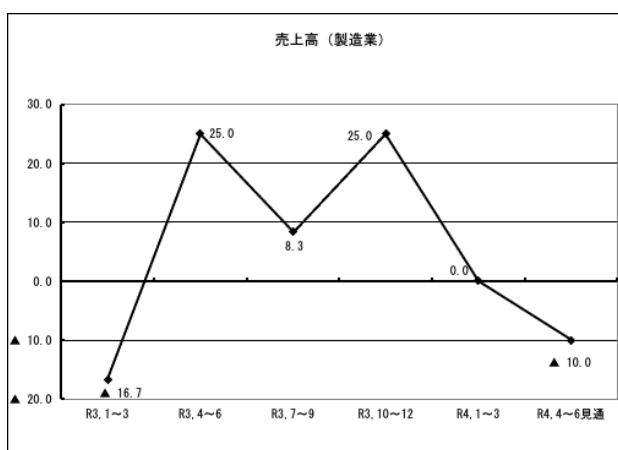
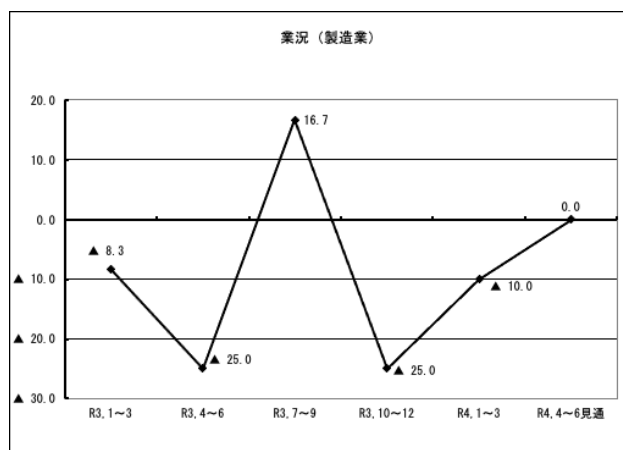
製造業

製造業の業況DIは▲10.0と前回調査に比べて15.0ポイント上昇した。過去1年を見ると令和3年7月～9月期が16.7と突出しているが、その他の時点では0.0未満であり、1年前に戻ったと考えられる。一方で4月～6月期見通しは0.0と上昇を予想しておりこの先は明るくなる見通しである。

売上高DIは0.0で前回調査と較べて25.0ポイント低下した。売上高DIは過去1年を見るとM字型に変動しており、今回は低下の順になったとも言える。しかし、4月～6月期見通しは▲10.0で好転の順になっていないので注意する必要がある。

採算DIは▲30.0で前回調査より17.5ポイント低下した。2四半期連続の低下で過去1年では最低の結果になった。前々回調査の16.7と比べると41.6ポイントの低下であり、採算が一気に悪化していることが伺える。4月～6月期見通しは▲20.0なので少しは好転しそうである。

資金繰りDIは11.1で前回調査に比べて25.4ポイント上昇した。資金繰りDIは従来から変動が少ない指標なのでこれだけ動くのは今回調査時点での資金繰りがよくなったと考えられる。しかし、4月～6月見通しは▲66.7と急激に相当悪化の予想となっており警戒が必要である。



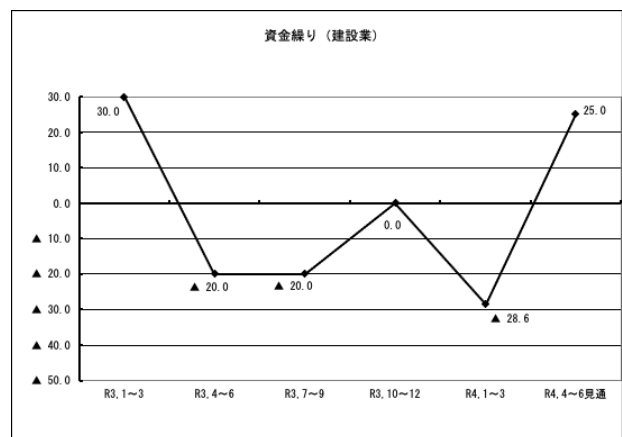
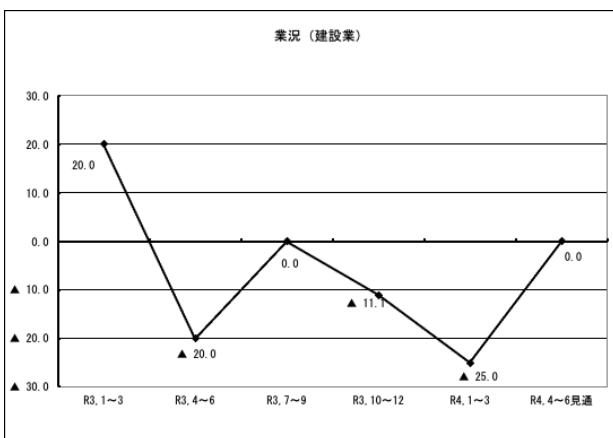
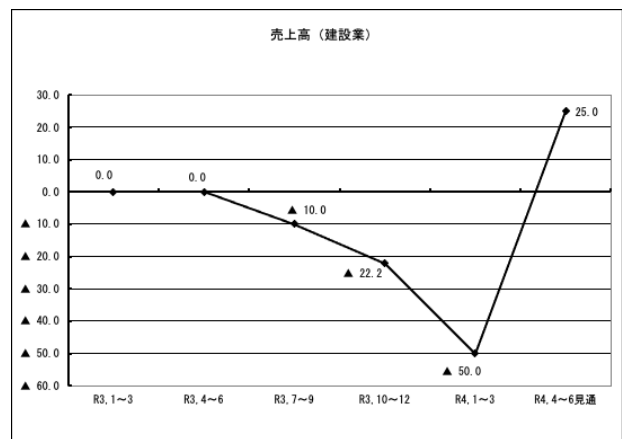
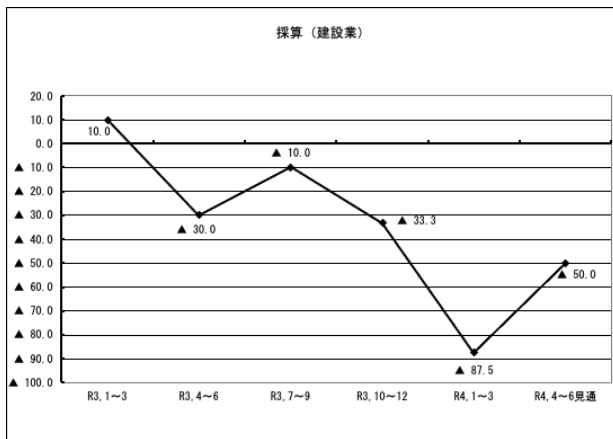
建設業

建設業の業況DIは▲25.0であり前回調査から13.9ポイント低下した。これで2四半期連続の低下である。1年前の令和3年1月～3月期が20.0であったことを考えると、1年前と今回調査時点ではかなり様相が違うと言える。しかし、4月～6月期見通しは0.0と反転しているため、この先は明るくなる予想である。

売上高DIは▲50.0で前回調査より27.8ポイント低下した。3四半期連続の低下である。令和3年4月～6月期の0.0から3四半期で50ポイント低下している。かなり厳しい状況であると考えられる。一方で、4月～6月期見通しは大きく上昇した25.0でありここが底とという見方なのである。

採算DIは▲87.5で前回調査より54.2ポイント低下した。採算DIがこれだけ下ることもめったにないことであり、採算はかなり厳しいと言わざるを得ない。4月～6月期は▲50.0と戻してはいるが、この数値自体が相当低いものであり、厳しさは変わらない見通しである。

資金繰りDIは▲28.5で前回調査より28.5ポイント低下した。前回調査で上昇した分今回調査で低下したような動きである。4月～6月期は25.0と一気に50ポイント以上上昇しており、資金繰りは好転しそうである。



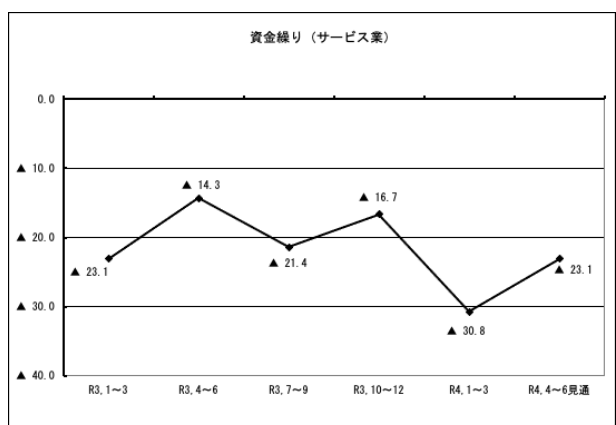
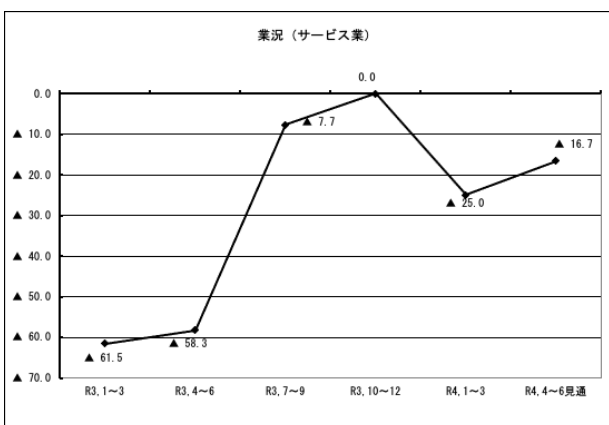
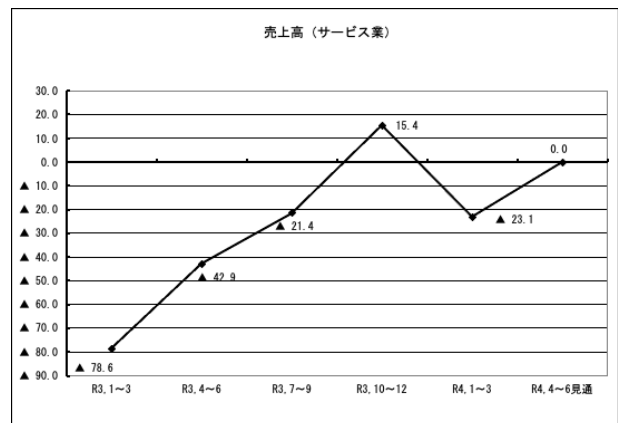
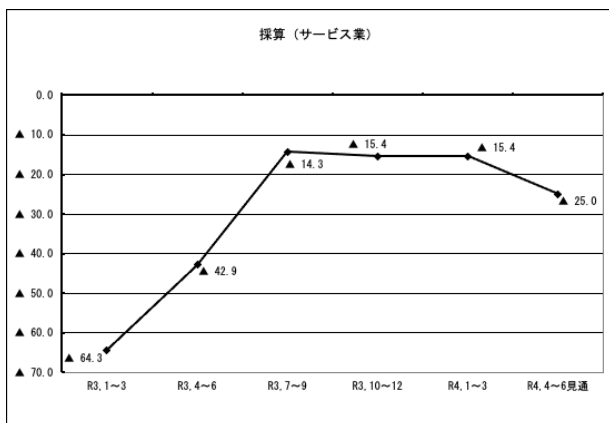
サービス業

サービス業の業況DIは▲25.0で前回調査に比べて25ポイント低下した。前回調査まで3四半期連続で上昇を続けてきたが、今回は少し大きめに低下した。ただ、前回調査での見通しでは▲46.2であったのでそれと比べると低下幅は小さかったと言える。4月～6月期見通しは▲16.7で再び上昇が予想されている。

売上高DIは▲23.1で前回調査より38.5ポイント低下した。これまで3四半期連続の上昇であったのが今回は低下であり、低下幅は前回調査で上昇した分と同等であった。しかし、4月～6月期見通しは0.0と好転を予想しており、上昇の機運にあるようである。

採算DIは▲15.4で前回調査と同じであった。3四半期連続で同様の数値が並んでおり、低位で安定している。4月～6月期見通しは▲25.0と低下を予想しており、採算は低下傾向と考えられているようである。

資金繰りDIは▲30.8で前回調査より14.1ポイント低下した。過去1年では最低の数値であり、資金繰りが悪化しているように見える。4月～6月期見通しは▲23.1と少し上昇が予想されているが、資金繰りが良くなるというところまでの上昇とは言い難い。



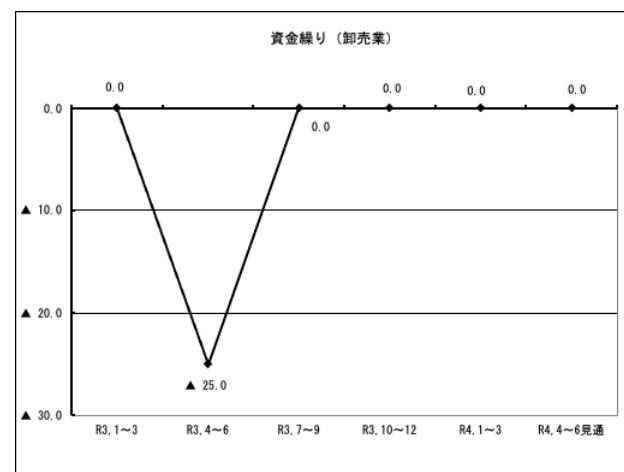
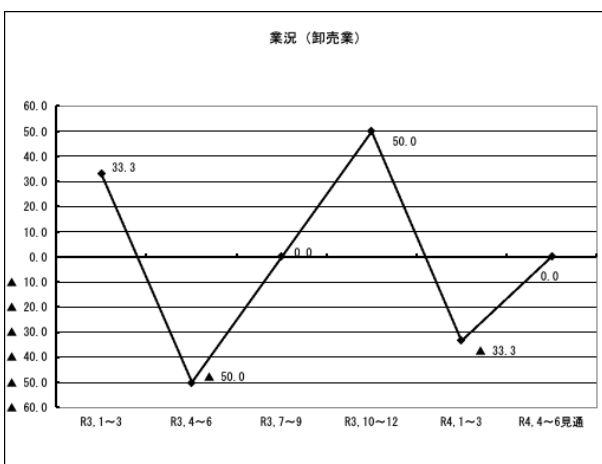
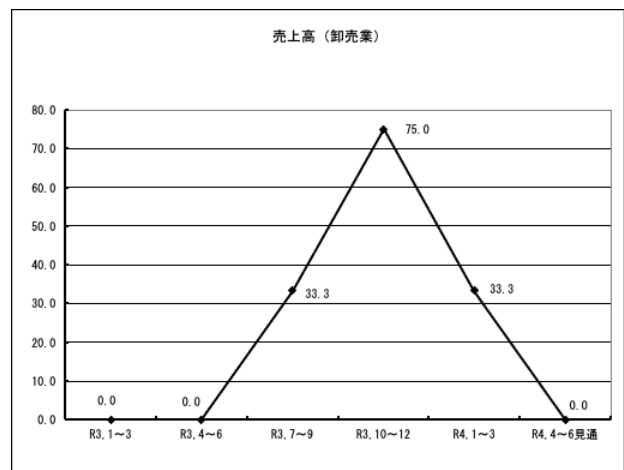
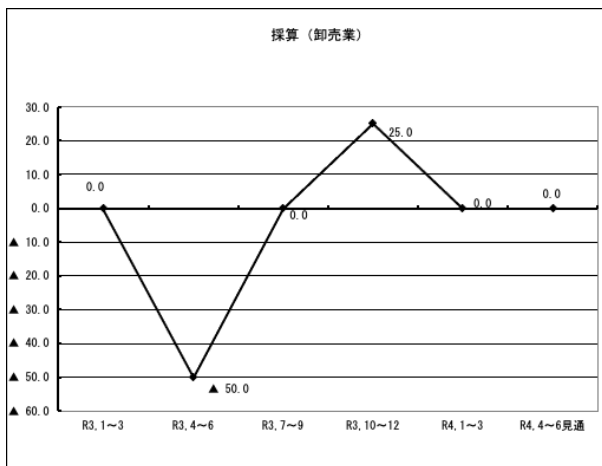
卸売業

卸売業の業況DIは▲33.3で前回調査より83.3ポイント低下した。83ポイントの低下は他業種では相当な変動であるが、卸売業に関しては調査サンプル数が少数であるのでこれぐらいの変動があってもおかしくはないと言える。4月～6月期見通しは0.0であり、次は上昇の順と見通されている。

売上高DIは33.3で前回調査より41.7ポイント低下した。令和3年7月～9月期と同じ数値である。過去1年を見る限り前回調査が突出していると見た方がよいかもしれない。4月～6月期見通しは0.0でさらに低下する予想となっている。

採算DIは0.0で前回調査と比べて25ポイント低下した。令和3年7月～9月期と同じ数値である。過去1年では0.0と挟んで上下に変動する動きになっているので今回調査は0.0の順になったと見ることができる。4月～6月期見通しも0.0で採算は安定しているとも考えられる。

DI資金繰りDIは0.0で前回調査と同じであった。令和3年4月～6月期調査で▲25.0とした以外は0.0の資金繰りの数値で、非常に安定していると考えられる。4月～6月見通しも0.0である。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	1～3 月期動 向	4～6 月期見 通し	1～3 月期動 向	4～6 月期見 通し	1～3 月期動 向	4～6 月期見 通し
全 体	▲ 19.6	▲ 8.9	▲ 14.6	2.0	▲ 30.6	▲ 25.5
小売業	▲ 15.4	▲ 14.3	▲ 7.1	0.0	▲ 20.0	▲ 21.4
製造業	▲ 10.0	0.0	0.0	▲ 10.0	▲ 30.0	▲ 20.0
建設業	▲ 25.0	0.0	▲ 50.0	25.0	▲ 87.5	▲ 50.0
サービス業	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 23.1	0.0	▲ 15.4	▲ 25.0
卸売業	▲ 33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	1～3 月期動 向	4～6 月期見 通し	1～3 月期動 向	4～6 月期見 通し	1～3 月期動 向	4～6 月期見 通し
全 体	▲ 8.3	▲ 4.1	▲ 39.1	▲ 34.0	▲ 8.9	▲ 2.3
小売業	▲ 21.4	▲ 13.3	▲ 53.8	▲ 38.5	▲ 16.7	▲ 16.7
製造業	0.0	▲ 10.0	▲ 30.0	▲ 10.0	10.0	0.0
建設業	12.5	25.0	▲ 25.0	▲ 12.5	14.3	28.6
サービス業	▲ 30.8	▲ 15.4	▲ 50.0	▲ 38.5	▲ 30.8	▲ 8.3
卸売業	66.7	33.3	0.0	▲ 33.3	0.0	0.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	1～3 月期動 向	4～6 月期見 通し	1～3 月期動 向	4～6 月期見 通し	1～3 月期動 向	4～6 月期見 通し
全 体	▲ 17.4	▲ 21.3	0.0	0.0	0.0	0.0
小売業	▲ 21.4	▲ 21.4	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 10.0
製造業	11.1	▲ 66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	▲ 28.6	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス業	▲ 30.8	▲ 23.1	9.1	9.1	9.1	9.1
卸売業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

過去からの動向

